

AI と資産運用

神戸大学 岩壺 健太郎

<パネルの趣旨>

金融業界の中核事業で人工知能（AI）を活用する動きが広がっています。外国為替取引では超高速の自動取引だけでなく、ディープラーニングによる相場予測や効率的な取引を実現させるための方策として使われ始めました。そこで、今回の国際金融パネルでは、AIを用いた資産運用の現状と課題について、最先端の研究や技術を紹介しながら議論します。

まず、大学教授の傍ら資産運用会社 **Magne-Max Capital Management** の代表として AI 投信を設計し **Yahoo** に卸している岡田克彦教授（関西学院大学）から、ファイナンス研究の知見に立脚したクロスセクションの株価予測を AI を用いてどのように行うのかをお話し頂きます。

次に、大和証券投資信託委託 AI 研究リーダーの鈴木智也教授（茨城大学）から、混同されやすい「自動化」と「知能化」の違い、AI 運用の実現事項と未実現事項、ボトルネックの解消法についてご紹介いただきます。

さらに、画像解析による為替予測プラットフォームをじぶん銀行に卸している **AlpacaJapan** 開発総括の北山朝也氏から、機械学習を使って短期の為替予想を行う方法や、実運用に耐えうる為替予測システムの設計・構築の仕方、今後の発展のあり方についてお話いただきます。

パネル後半では、(1)機械学習と統計推論の使い分け、過学習に陥らず汎化性能に優れたモデルを採用するために心がけるべきこと、(2) AI のブラックボックス問題がもたらす説明責任、受託者責任に関する解決法、(3) AI に長けた投資家が多くを占める金融市場でどのような問題が生じるのか（ファンドマネージャーは AI にとって替わるのか、個人投資家は収益をあげられないのか）などの論点について議論を行う予定である。